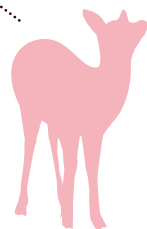


まほろばだより

第58号



● Contents ●

- Report1 国際ソロプチミスト奈良―あすか授賞式
- Report2 本学教員・研究者及び附属病院勤務医師の女性割合
- Report3 男女共同参画の理解を深める授業の実施
- Report4 2026年度安井医学奨学生学内推薦者決定
- Information 1 第16回女性研究者学術研究奨励賞募集

Report

I

国際ソロプチミスト奈良―あすかクラブにて
授賞式が開催されました

国際ソロプチミストは、女性と女兒の生活と地位を向上させるための奉仕活動を行い、世界の様々な女性の地位向上を目指す組織です。国際ソロプチミスト奈良―あすかクラブでは、将来性のある研究を行う優秀な女性を表彰する目的で女性研究者賞を創設されています。

この度、小児科学の野上恵嗣教授及び女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた小児科学・臨床研修センターの大西智子助教が国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞を受賞されました。

5月28日橿原神宮の養生殿にて華やかな表彰式が執り行われ、国際ソロプチミスト奈良―あすかの和田奉子会長から講評・賞状等の授与が行われました。表彰式では、和田会長はじめクラブの皆さまが、大西先生にお祝いの言葉と今後益々の発展を期待する励ましのお言葉をかけてくださりました。本学の女性研究者をいつも勇気づけてくださる奈良-あすかの皆さまに心より感謝申し上げます。



左：和田奉子会長 右：大西智子助教

Information

I

第16回女性研究者学術研究奨励賞募集

本学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者に対して、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

第16回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全教職員へ一斉メールでご案内予定です。対象者は、本学の女性教員（教授を除く）、医員、博士研究員、特別研究員、大学院生です。過去の実績一覧および研究テーマは、当センターHPに掲載しています。数多くの女性研究者からのご応募をお待ちしています。

<https://josei.narmed-u.ac.jp/activity/training/index.html>

当センター HP/ 女性研究者育成▶



本学教員・研究者および附属病院勤務医師の女性割合

(令和8年5月1日現在)

令和8年度の本学医学部女性教員・女性研究者の割合は、女性研究者・医師支援センター設立前および法人予算でセンター運用を開始した平成26年度と比較して着実に増加し、女性教員は25%、女性研究者は30%を超えています(図1)。職位別で見ると、助教と講師の女性割合は30%近くとなっていますが、教授と准教授の女性割合は残念ながら10%台半ばに留まっています(図2)。

女性教員が81.1%と大半を占め、女子学生が96.2%にのぼる看護学科においても、女性の教授は8人(66.7%)、准教授は3人(75.0%)、講師は9人(81.8%)、助教は10人(100%)と上位職になるほど女性割合が低くなっています。一方、医学科の女性教員割合は19.3%と令和8年度目標の19.5%に僅かに届いていません(図3)。昨年度と比べて医学科の女性准教授は2人増加し8人(准教授総数67)となっていますが、女性教授はゼロ(教授総数44)が続いています。近年、医学科女子学生の割合は全国的に増加しており、本学においても令和6年度以降は30%を超えています。また、本学博士課程大学院生の女性割合も23.8%と増加傾向にあります(図4)。医学教育および研究の多様性構築の観点からも更なる女性教員の増加および指導的役割を果たす女性の教授、准教授の増加が望まれます。

本学附属病院に勤務する医師では、今年度初めて臨床研修医の女性割合が40%を超え、専攻医の女性割合は37.8%になる等、若い世代で女性医師が増加しています(図5)。臨床研修医を除く常勤女性医師も順調に増加しており、本年度は172人となりました(図6)。常勤女性医師の増加は、本学で働き方改革が順調に進み、妊娠・出産、育児等のライフイベント中も働きやすい職場環境が整備されていることを反映したものとされます。一方、教員候補となる診療助教の女性割合は24.1%、臨床系女性教員の割合は18.4%に留まっており(図5)、女性医師のキャリア向上は道半ばの状況です。臨床系女性教員の採用割合は、ここ数年間は10%台でしたが、令和7年度は30%を超えました(表1)。第4期中期目標・中期計画に沿って女性教員を増加するためには、今後も臨床系女性教員の採用割合を安定的に20%以上とすることが重要です。

図1 医学部女性教員・女性研究者割合の推移

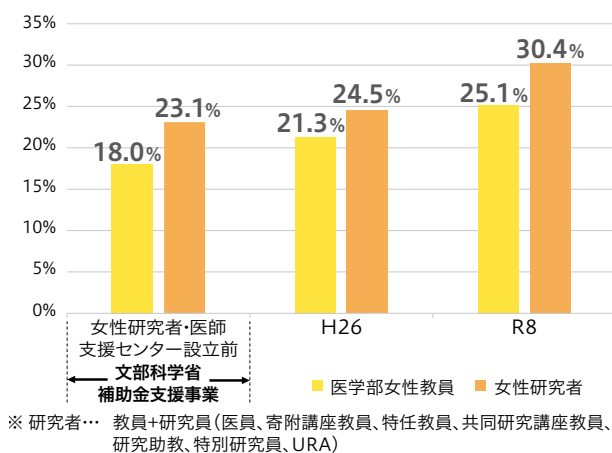


図2 医学部教員職位別女性割合

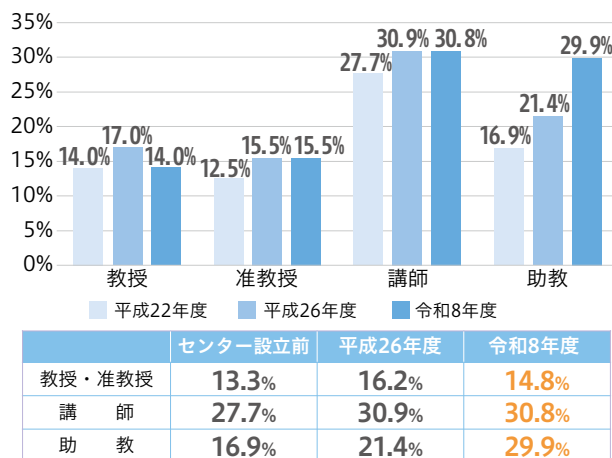


図3 医学科女性教員数・割合の推移

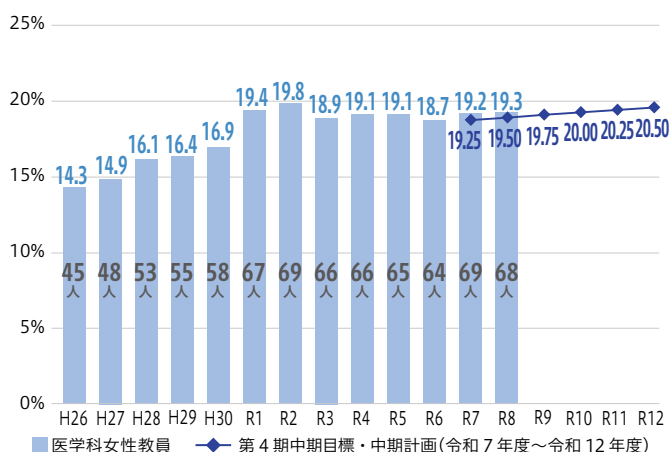


図4 医学科教員・学生の女性割合の推移

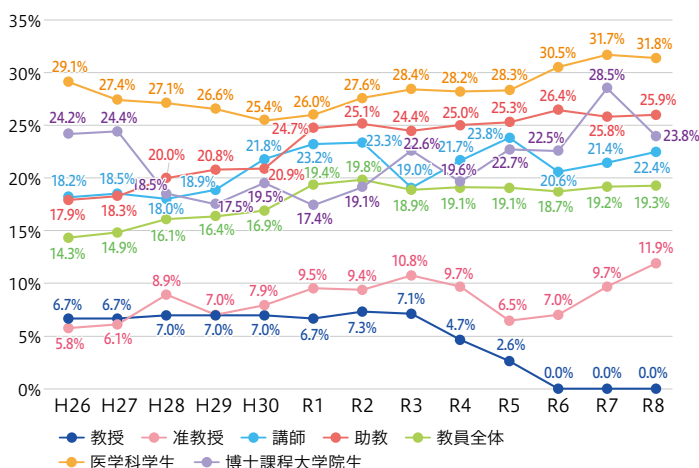


図5 附属病院勤務医師の職位別男女比

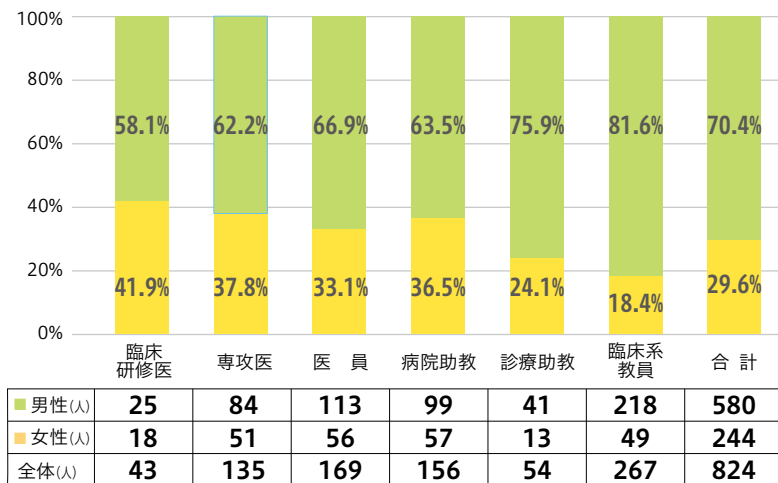
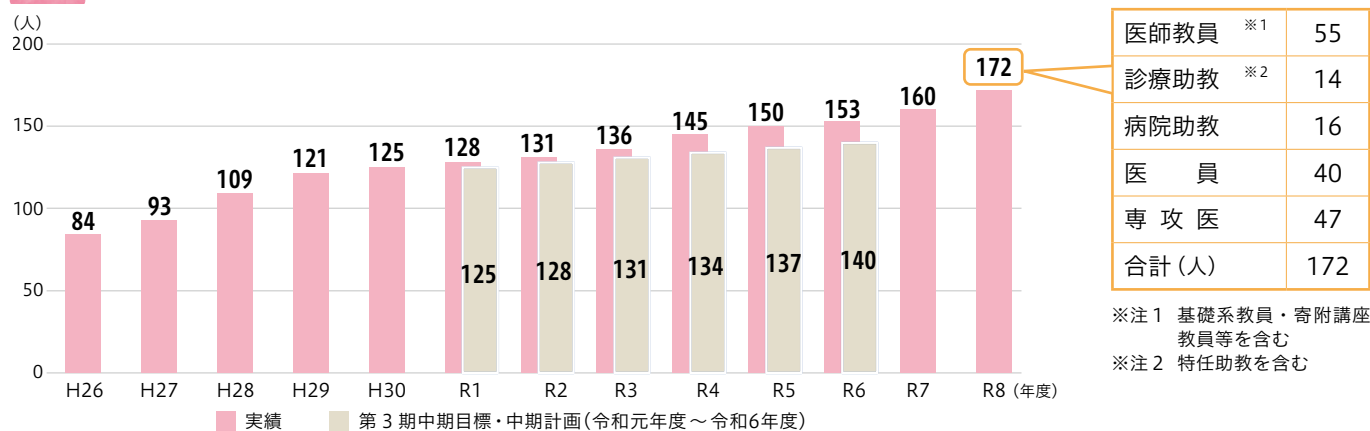


表1 女性教員採用割合

	医学部 女性教員	医学科 女性教員	臨床系 女性教員
H26	18.2%	12.8%	16.1%
H27	26.7%	23.3%	21.6%
H28	23.3%	22.9%	22.7%
H29	23.1%	22.2%	20.0%
H30	31.4%	22.6%	24.0%
R1	33.3%	28.9%	35.1%
R2	15.4%	13.2%	11.8%
R3	31.6%	23.5%	16.7%
R4	24.3%	17.6%	15.6%
R5	16.3%	12.2%	12.1%
R6	18.4%	16.3%	14.3%
R7	33.3%	31.3%	32.0%

注) 女性教員採用割合(%) = $\frac{\text{女性教員採用数}}{\text{男女教員採用総数}} \times 100$

図6 常勤女性医師数(週5日勤務)の推移 ※臨床研修医を除く



令和8年5月1日現在、臨床系女性教員49人の所属教室は表2の通りです。本学で最も多く臨床系女性教員が在籍するのは産婦人科学で、現在8人の女性教員が活躍しています。次いで、小児科学が7人、麻酔科学が6人、放射線診断・IVR学が4人となっています。**産婦人科学、小児科学、麻酔科学、脳神経内科学では、昨年度と比べて女性教員が増加しています。**反対に、**皮膚科学、感染症内科学、眼科学では女性教員が減少しています。**また、全28臨床医学教室の中で講師以上の上位職に女性が在籍するのは、小児科学、放射線診断・IVR学、病理診断学、脳神経内科学、放射線腫瘍医学、リハビリテーション医学、皮膚科学、感染症内科学、眼科学の9教室です。その中で**女性准教授が在籍するのは、小児科学、病理診断学、脳神経内科学、感染症内科学、眼科学の5教室**です。今後、女性教員が多い産婦人科学と麻酔科学に女性上位職が誕生することを期待しています。

一方、女性教員ゼロの臨床医学教室は11教室です。**がんゲノム・腫瘍内科学、救急医学、胸部・心臓血管外科学、口腔外科学、呼吸器内科学、循環器内科学、消化器内科学、腎臓内科学、脳神経外科学、泌尿器科学の10教室では、残念ながら女性診療助教もゼロ**の状況です。これら女性教員ゼロの教室では、ぜひ教室全体で男女共同参画の機運を高め、女性教員誕生に向けて女性医師の育成にご尽力いただきたいと思います。

女性研究者・医師支援センターでは、より多くの女性教員の就任と昇進を目指して、今後も研究支援、働き方改革推進、ハラスメント防止、医学科学生へのキャリア教育に取り組みます。

表2 臨床系女性教員の所属教室(令和8年5月1日現在)

所 属	人数(人)	所 属	人数(人)
産婦人科学	8	眼科学★	1
小児科学★	7	総合医療学	0
麻酔科学	6	がんゲノム・腫瘍内科学	0
放射線診断・IVR学★	4	救急医学	0
病理診断学★	3	胸部・心臓血管外科学	0
消化器・総合外科学	3	口腔外科学	0
脳神経内科学★	2	呼吸器内科学	0
糖尿病・内分泌内科学	2	循環器内科学	0
放射線腫瘍医学★	2	消化器内科学	0
リハビリテーション医学★	2	腎臓内科学	0
皮膚科学★	2	脳神経外科学	0
血液内科学	1	泌尿器科学	0
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1	その他★	2
整形外科	1	令和8年度 臨床医学系 女性教員 合計49名	
精神医学	1		
感染症内科学★	1		

★ 講師以上の上位職女性が在籍
 女性教員が増加した教室
 女性の教員はゼロだが女性の診療助教が在籍する教室
 女性教員が減少した教室
 女性教員および診療助教がゼロ

男女共同参画の理解を深める授業の実施

講師：奈良女子大学 学長補佐 男女共同参画推進機構長 星野聡子 教授

医学科および看護学科1年生を対象とした必修授業である「次世代医療人育成論」において、9月8日(火)女性研究者・医師支援センターの須崎センター長が担当する男女共同参画に関する授業が実施されました。本年度は、講師に奈良女子大学学長補佐の星野聡子先生をお招きし、「男女共同参画って、自分に関係ある？一人生の「公正」と「平等」について考える」というタイトルの下、男女共同参画の歴史やこれまでの男性規格で作られてきた職場環境等についてわかりやすくご講演いただきました。講演後は、医学科と看護学科男女学生混合のグループに



星野聡子教授



授業の様子

「これまで『自分で選んだ』と思っ

ていたことの中に、実は周囲の期待や社会のイメージが影響しているものはありませんか？」と問いかけ、グループ内で活発な議論が行われました。授業の最後に各グループが発表を行い、男性も女性も自分の可能性を伸ばして自分らしい選択ができる環境、一人一人の幸せを実現できる社会の重要性を共有しました。ご多忙の中、本学学生に貴重なご講演ならびにグループワークの機会を賜りました星野先生に深く御礼申し上げます。女性研究者・医師支援センターでは、今後も医学科看護学科学生に男女共同参画の理解を深める教育を行なっていきたいと思っています。

2026年度安井医学奨学生学内推薦者が決定しました

一般社団法人大学女性協会国内奨学金の安井医学奨学金は、文部科学省の認定する大学院に在籍中の医学・歯学・薬学を専攻する学業・研究・人物ともに優れた女子学生に学資を授与し、その勉学と研究活動を奨励することを目的として1991年に設立された奨学金です。本学では、2021年度から女性研究者・医師支援センターが主体となり毎年1名の候補者を学内で選考しています。2026年度は3名の応募がありました。

8月4日に開催された女性研究者・医師支援センター運営委員会で慎重に審議をした結果、放射線診断・I V R学博士課程2年生の入里真理子氏を推薦することが決まりました。全国の大学から推薦された大学院生の選考は後日大学女性協会にて行われ、11月に安井医学奨学金授与者1名が決定される予定です。入里真理子氏のご健闘をお祈りしています。

【本学候補者】放射線診断・I V R学 画像診断・低侵襲治療学 博士課程2年生 入里真理子氏

【研究課題名】肝細胞癌に対するTACEが腫瘍免疫微小環境に与える影響の解明

【推薦者】放射線診断・I V R学 教授 田中利洋氏

【編集後記】

本年5月に全臨床系教室を対象に当センターが実施した調査では、女性医師が専門医取得に困難を抱える様子は見受けられませんでした。一部の内科系教室と手技の習得に時間を要する外科系教室を中心に、入局者の女性割合と比較して学位取得者の女性割合が有意に低いという結果を得ています。女性医師のアカデミックキャリア向上は、女性教員増加の観点からも全学で取り組む課題と考えています。

センター長 須崎康恵

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp

